

新しい玉名へ



玉名市長 高崎哲哉

発刊にあたって

玉名市は、県の北部に位置し、阿蘇外輪山を源流とする菊池川の恵みをうけ、豊富な水と緩やかに広がる玉名平野を有し、小岱山と金峰山系の山々、そして豊穡の海有明海を臨む、恵まれた自然の中に息づく歴史と伝統文化を伝える田園都市として発展してきました。

およそ1300年の歴史を有する「玉名温泉」や日本を代表する文豪・夏目漱石ゆかりの「小天温泉」、そして特産物として肥沃な土地から生産されるいちご、トマト、みかん、有明海から生産される海苔、アサリ貝はいずれも国内有数の品質と生産量を誇ります。

平成23年2月には玉名バイパスが完成し、市街地の渋滞も緩和され、続く3月には長年の悲願であった九州新幹線の全線が開通し、新玉名駅、博多間が約40分、鹿児島間は約1時間という大きな利便性を活かした企業誘致を更に推し進め、雇用促進や通勤圏としての定住化促進につなげてまいります。まさに、我々のふるさと玉名市が明るい未来に向けて『発進』したところです。

今後も行財政の効率化を進める一方、様々な施策に積極的に取り組み、市民の皆様が「玉名に住んで良かった」と思っただけの都市(まち)づくりに向け、邁進してまいります。

このたび、皆様に本市の現況をご紹介いたしたく、「市勢要覧」を発刊いたしました。今後とも市政発展にお力添えいただければ幸いです。

平成24年3月